

オープンプラン3年生 算数

『わり算』

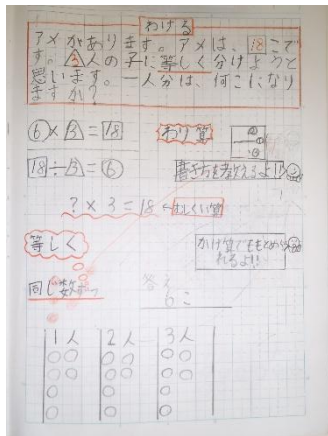
～図にして考えよう～

3年生になって新たに学習する『わり算』。3年生が始まった当初から、子どもたちは「いつからわり算やるの?」と、興味津々でした。

まずは、わり算の場面の問題を読み、どうやって分けるのかを考えます。その際子どもたちは、実際におはじきを使って分けていきます。紙の上におはじきを分けていき、まとまりを作っていくと…。 “わり算”は“かけ算”で考えればよいことがわかってきます。



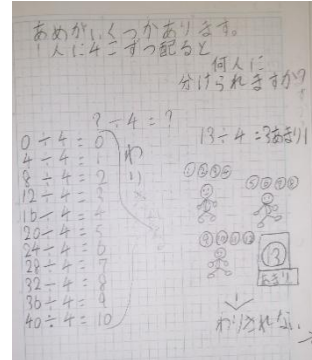
子どもたちは、おはじきで分けたり、ノートに図を書いたりしながら、わり算はかけ算で答えが求められるということ、学習していきました。



わり算の学習が終わってしばらくたつと、“次の”わり算の学習が始まります。今までは“わりきれた”のに、“わりきれない”わり算の登場です。

今までわり算は“わりきれる”のが当たり前だったのに、“わりきれない”数のわり算が出てくると、戸惑う子どもがいます。8 ÷ 4、12 ÷ 4、16 ÷ 4などの“わりきれる”わり算の式は子どもたちから普通に出てきても、13 ÷ 4のような“わりきれない”数のわり算の式は、子どもたちからはなかなか出てきません。13 ÷ 4という式を提示すると、子どもたちの中には、「それはわり算じゃない。」と

いう子どももいます。「じゃあ、ノートに図を書いて考えてみよう。」となげかけると、子どもたちはそれぞれに図を書いて考え始めます。一生懸命考えて、「残りの一個も3人で分ければいいんだよ。」なんて意見も登場します。いろいろな意見が出る中で、“あまり1”という答え方を学習していきました。



子どもたちは、新しく登場したわり算の“あまり”について、さらに考えていきました。「“わられる数”を1ずつ変えて答えを求めてみよう。」となげかけると、子どもたちはどんどんノートに答えを書きだしていきます。そうすると、子どもたちから「わかった!」「きまりがある!」などの声が…。 「じゃあ今度は、“わる数”を違う数にしてやってみるといいよ。」となげかけると、また違う数でわって答えを求め始めます。そのうち子どもからは、「やっぱりきまりがある!」という声があがってきました。子どもたちは自分で、わり算の“あまり”のきまりを、見つけ出すことができました。

